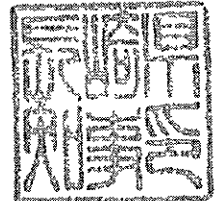


20道建第 127 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

長崎県知事 金子 原二郎



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

国道企第37号で依頼のあった標記の件について、別添により
回答いたします。よろしくお取りはからい願います。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

○高規格幹線道路から生活道路まで、地方にとって必要な道路の整備が遅れることがないよう道路整備財源が確保されること、また、地方団体の財政運営に影響のないよう配慮されることを要望する。

○離島、半島部が多いなど地理的・地形的ハンディキャップがあることに加え、交通手段のほとんどを自動車に依存しており、道路整備に対する県民の要請は極めて強い。このような本県の実情に応じ、格差是正への政策展開が必要であり、道路整備の事業選択にあたっては、B/Cなど画一的な指標のみで事業評価されることがないように要望する。

○新たな制度の創出

- ・ 地方道路臨時交付金の継続

地方の財政状況に応じた交付率により配分される交付金制度の継続

- ・ 地方有料道路への支援

地域振興や渋滞の緩和、沿道環境の改善などを目的とした通行料金の低廉化・無料化を実現するための財政支援

- ・ 維持管理への支援

計画的な維持・管理を行うため、維持修繕等への補助制度適用拡大

②－１ 地域の現状と抱える課題

○現状

- ・日本最西端に位置し、半島・離島が多く、平地が少ないなど、地理的・地形的ハンディがある。
- ・昭和34年の179万人をピークに人口減少が続き、現在は150万人を割り込んでいる。
- ・高齢化率は全国21%に対し、本県は24%、離島部はさらに高く29%である。
- ・産業構成では、第2次産業の割合が全国の26.1%に対し20.7%と低く、第1次産業は4.8%に対し9.1%と高い。
- ・観光客数は、平成13年度は3,100万人であったが、平成18年度は2,800万人である。
- ・長崎医療センターへの搬送件数は、平成10年の1,500件から平成19年には3,100件と増加傾向にある。

○課題

- ・高速交通体系の整備とそれに伴う県内各地域へのアクセス時間の短縮による交流人口の拡大
- ・県内就業を促進する企業立地や農林水産業の支援
- ・安全・安心で、快適に暮らせる地域づくり、まちづくり
など

②-2 地域の目指すべき将来像

交流とにぎわいのある長崎の郷土づくりのためには、人・もの・情報が地球規模で行き交う今日にあって、さらに魅力を高めながら、多様な交流を通してにぎわいを創り出し、活力を高めることが大切であり、以下の地域づくりを目指す。

1. 交流を拡げる魅力的なまちづくり

交流人口を増やす、人々が訪れたくなるような魅力ある地域の創出。

○豊かな自然、歴史、文化などの多彩な地域資源の有効活用

○「しまや半島」豊かな自然や美しい景観を活かした農山漁村と都市との交流の促進

○美しいまちなみの保全創出など魅力的な都市空間の整備

2. 競争力のあるたくましい産業の育成

地域活力を支える経済基盤の強化。

○競争力のある企業や高付加価値の製品・サービスの創出・育成

○県産品のブランド化や他産業との連携による農林水産業の生産・経営体質の強化

3. 安心して快適な暮らしの実現

地域に住む人々がいきいきと安心して暮らせるまちづくり。

○予防重視による健康で安心して暮らせる医療・福祉システムづくり

○生活環境の向上を図るための社会資本整備の着実な推進

○地域社会や民間企業が協働して取り組む子育て支援の推進

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

長崎県

■地域活力の向上	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
	○広域ネットワークを形成する高規格道路・地域高規格道路の整備 ・西九州自動車道 ・島原道路	○期待する効果や評価等 西九州自動車道の整備により、福岡市と平戸市の連絡時間が3時間50分から1時間30分に短縮できる。 県北地域は、西海国立公園やハウステンボス、さらには、世界遺産暫定リストに登録されたキリスト教関連遺産など、多くの観光資源に恵まれることから、新たな周遊観光ルートの創出が期待できる。 また、水産業も盛んであり、松浦市にはアジ、サバの水揚げが全国でもトップクラスの市場があり、大消費地である福岡都市圏への搬送時間が大幅に短縮されることから水産物の鮮度向上が図られる。 これらにより、県北地域の社会・経済活動の活性化や地域産業の振興を強く支援するものである。 武雄～諫早間の新幹線の整備が決定され、雲仙天草国立公園や温泉に加え、世界遺産暫定リストに登録されたキリスト教関連遺産など、多くの観光資源に恵まれる島原半島地域にとっては観光の振興による地域の活性化の好機である。 島原道路の整備により、島原市と諫早インターチェンジの連絡時間が70分から30分に短縮できることから、観光客の大幅な増加や新たな企業誘致による地域の社会・経済活動の活性化が期待される。 また、当該地域は全国でも有数の馬鈴薯の産地であり、島原道路の整備により、出荷体制の効率化を可能とし、地域産業の振興を強く支援するものである。	

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
■地域活力の向上	○JR長崎本線連続立体交差化による都市の再生と交通結節機能の強化	海に続く終着駅という世界のどこにも負けない特徴をもつ長崎駅およびその周辺において、連続立体交差事業を土地区画整理事業と一体的に進めることにより、県都「長崎」の本土・離島への玄関口にふさわしい都市機能の集積、都市空間の形成によるにぎわいの創出と交流の促進を図る。 さらに、九州新幹線西九州ルートを整備や、平成18年度国際観光船の入港回数が全国一となった松が枝地区の国際観光ふ頭の整備など、広域交通の結節機能を強化するとともに、長崎市中心部における各種プロジェクトの有機的展開を図り、長崎県の未来につながる魅力ある総合的なまちづくりを推進する。 また、市中心部の踏切4箇所の除却により、交通渋滞の解消による道路交通の円滑化を図り、鉄道で分断されていた市街地の一体的な再整備により周辺住民の利便性を向上させる。	

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

長崎県

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
■美しいまちづくり、地域づくり ■安全・安心な生活の確保	○ゆとりと潤いのある都市空間の創出 ・都市計画道路 浦上川線 ○道路施設の長寿命化 ・橋梁長寿命化修繕計画の実施	○期待する効果や評価等 これまで閉ざされていた長崎市都心部の水辺の空間において、港湾整備と一体的に、ベンチや照明灯などを有し、電線類を地中化した快適な歩行者空間を整備することにより、港や川を眺めながらゆっくりと散策が楽しめる美しい遊歩道やプロムナードとして、中島川や出島ワフ、長崎県立美術館、水辺の森公園と続く歩行者ネットワークの構築を図り、市民の新たな憩いの場所を創出する。 長期間にわたり橋梁を保全し、安全・安心な道路交通を確保するとともに、ライフサイクルコストの縮減のため平成19年度に県が管理する橋長15m以上の道路橋633橋について橋梁長寿命化修繕計画を策定した。 この計画により、平成29年度までの10年間で161橋の補修を120億円の費用で集中的に実施することにより、その後の維持管理費用を抑えることが可能となり、その結果、橋梁の長寿命化や将来の維持管理コストの縮減が期待される。 引き続き、舗装、トンネル等の維持管理計画を策定、実施することにより、さらに維持管理の高度化を図る。	○その他